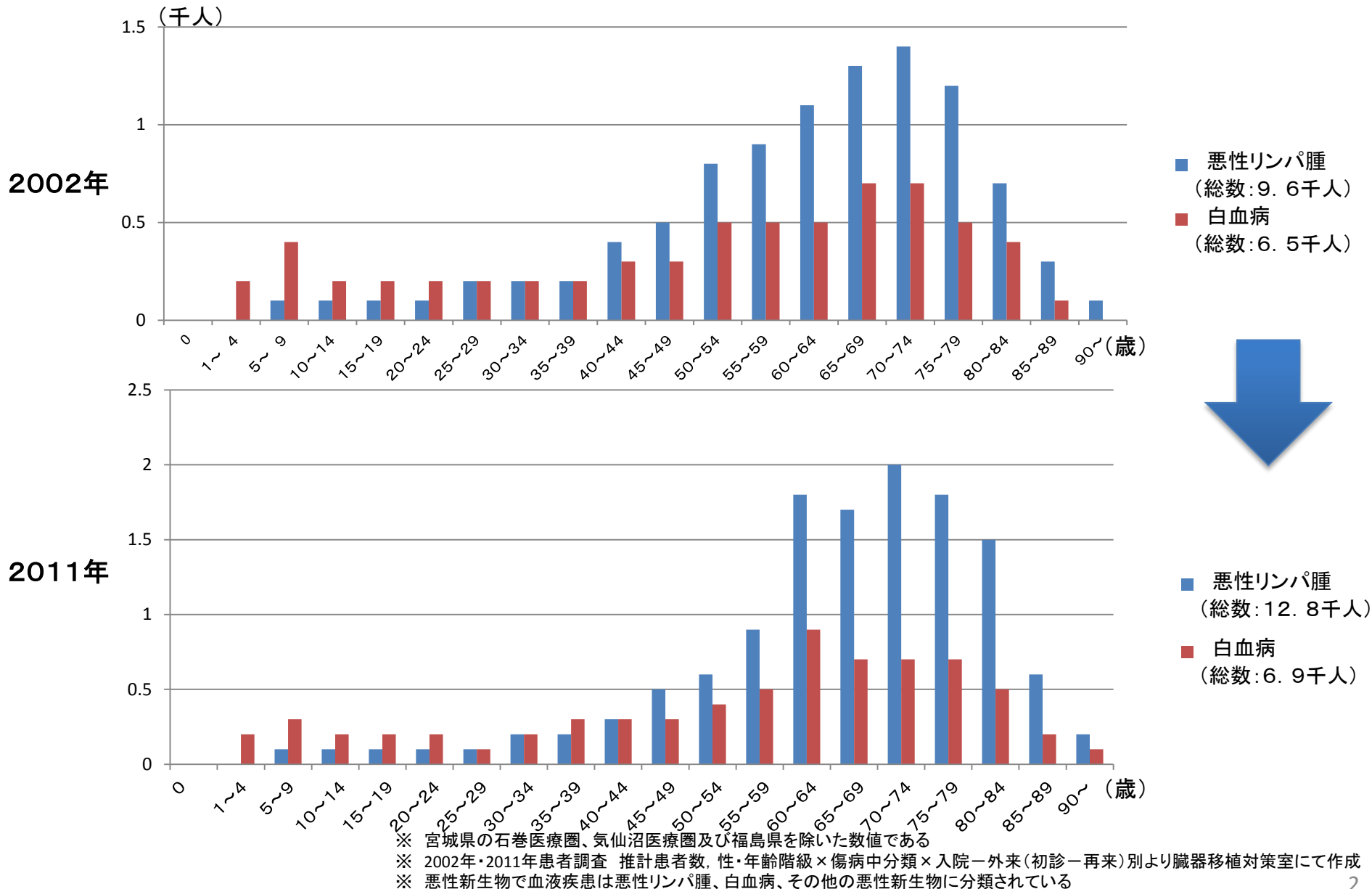


造血幹細胞移植を必要とする 患者の動向について

白血病・悪性リンパ腫患者数の推移

ここ10年で代表的な血液がんである白血病の患者数は6%、悪性リンパ腫の患者数は33%増加した。



急性骨髄性白血病で同種造血幹細胞移植が施行される割合

～成人白血病治療共同グループ(JALSG) AML201の例～

急性骨髄性白血病患者すべてに同種造血幹細胞移植が施行されるわけではない。

○ JALSGとは

より良い診断・治療法を開発し、白血病などの治癒率ならびに治療の質を向上させることを目指し、1987年に設立された多施設による白血病臨床研究グループ。2006年5月時点で、国内173施設が参加しており、多くの医師、研究者、医療従事者らが参加・協力している。

○ JALSG AML201試験の治療方針

(第一寛解期で同種造血幹細胞移植が行われる場合)

染色体リスク分類で予後中間群もしくは不良群でHLA
一致ドナーがいる50歳以下の患者

○ 登録患者数 1064名

うち 50歳以下 616名(57.9%)

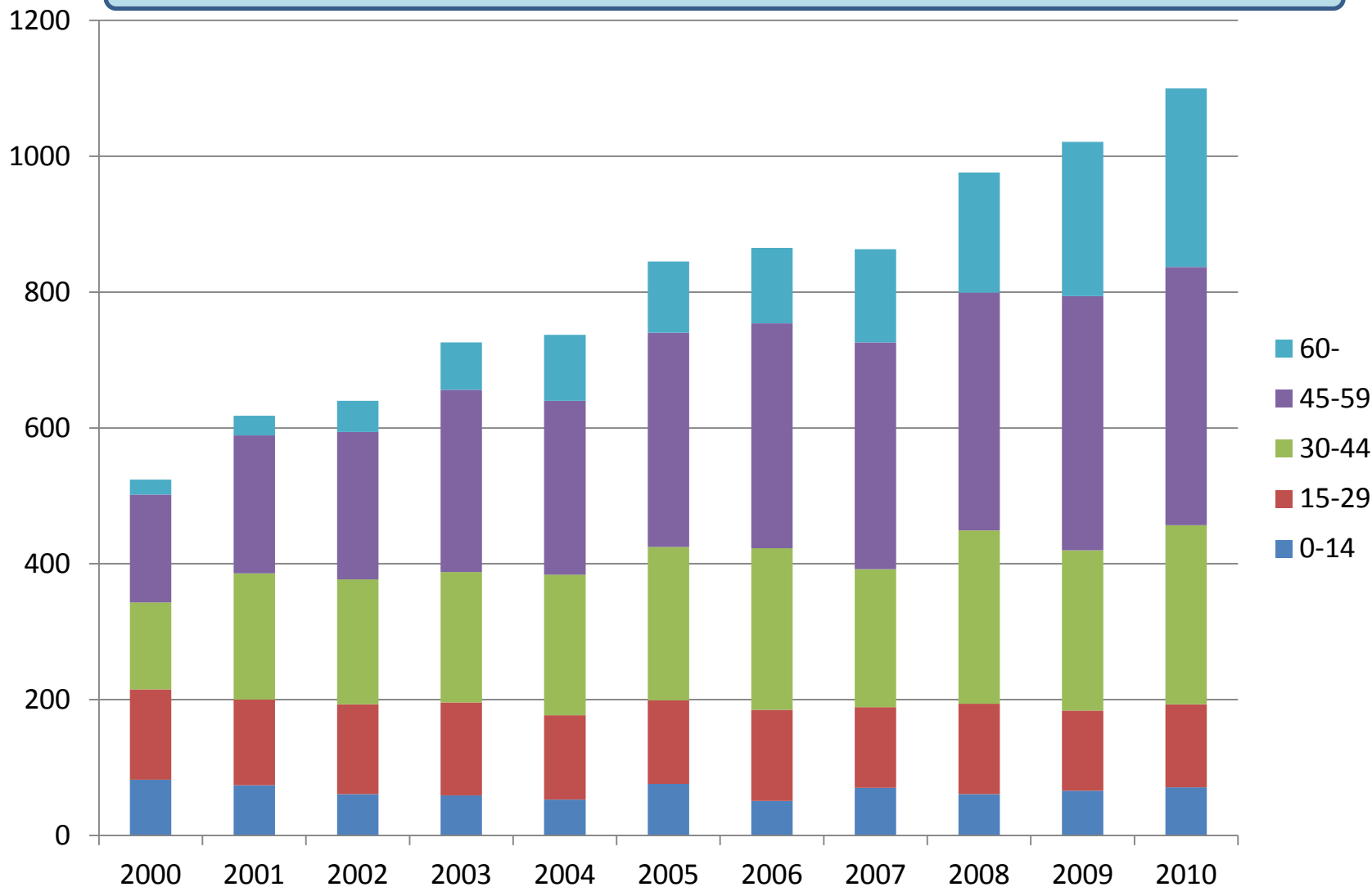
○ 第一寛解期で同種造血幹細胞移植が行われた例

136名(12.8%)

※ 一般的に初回寛解導入不能例、第一再発期以降でも同種造血幹細胞移植が行われる例がある

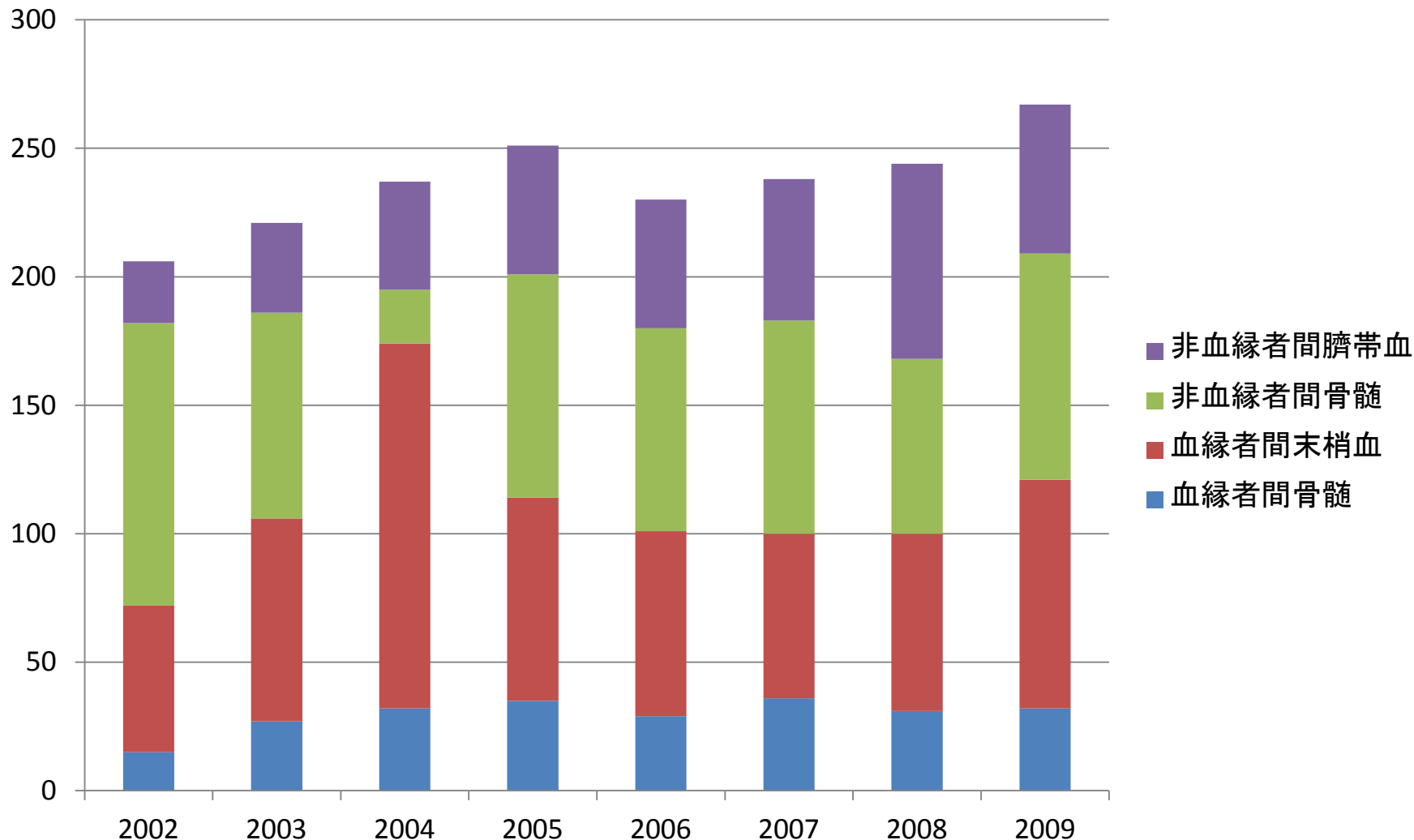
急性骨髄性白血病における同種移植患者数の移植時年齢別推移

高齢者を中心に、急性骨髄性白血病で移植を受ける患者の総数は増えている。



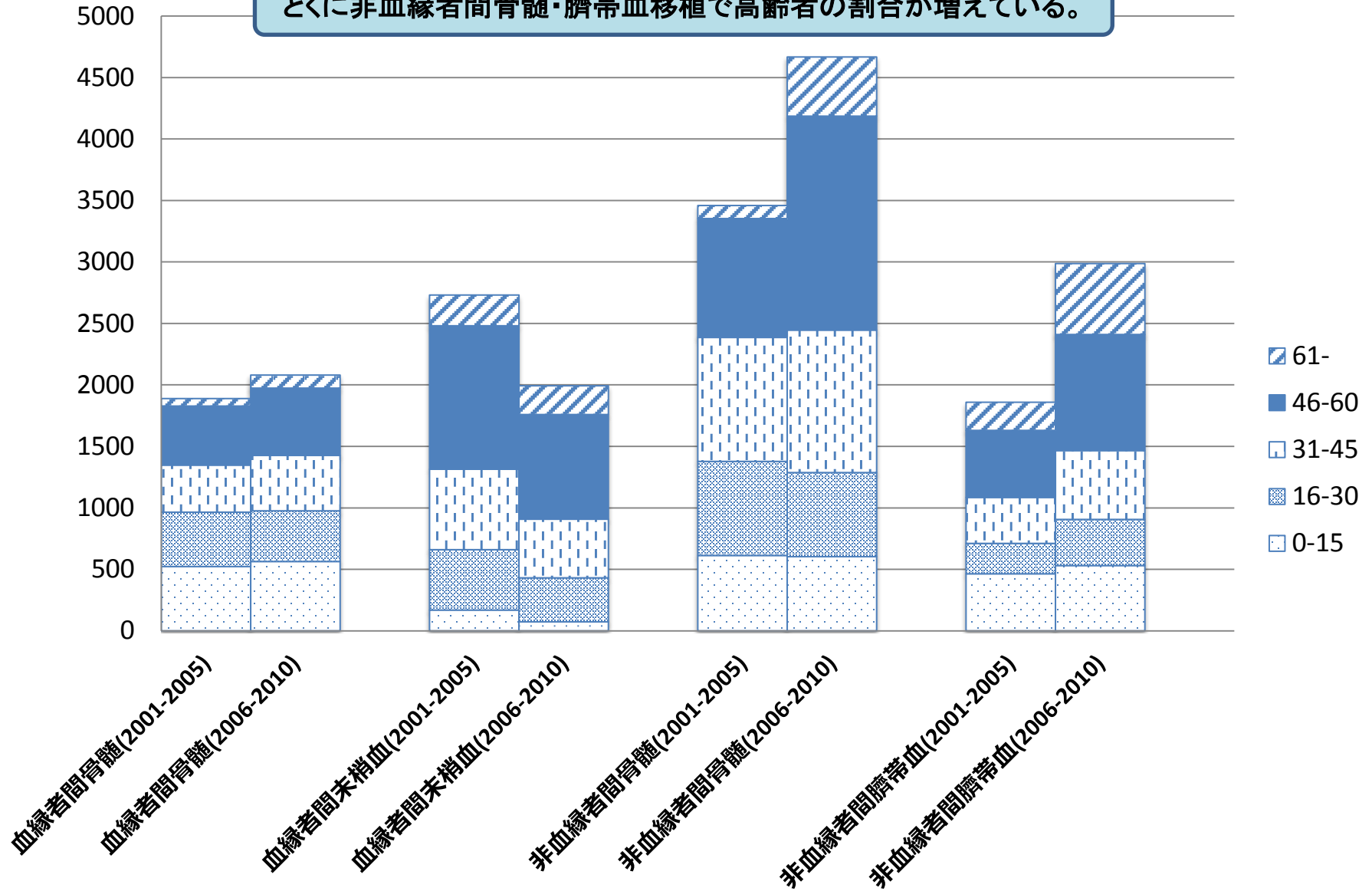
悪性リンパ腫における同種移植患者数の推移

患者数は増加しているが、リツキシマブ(新規治療薬)の登場により化学療法で病状が安定する患者が多い。
このため、悪性リンパ腫で同種移植が第一選択となることは少ない。



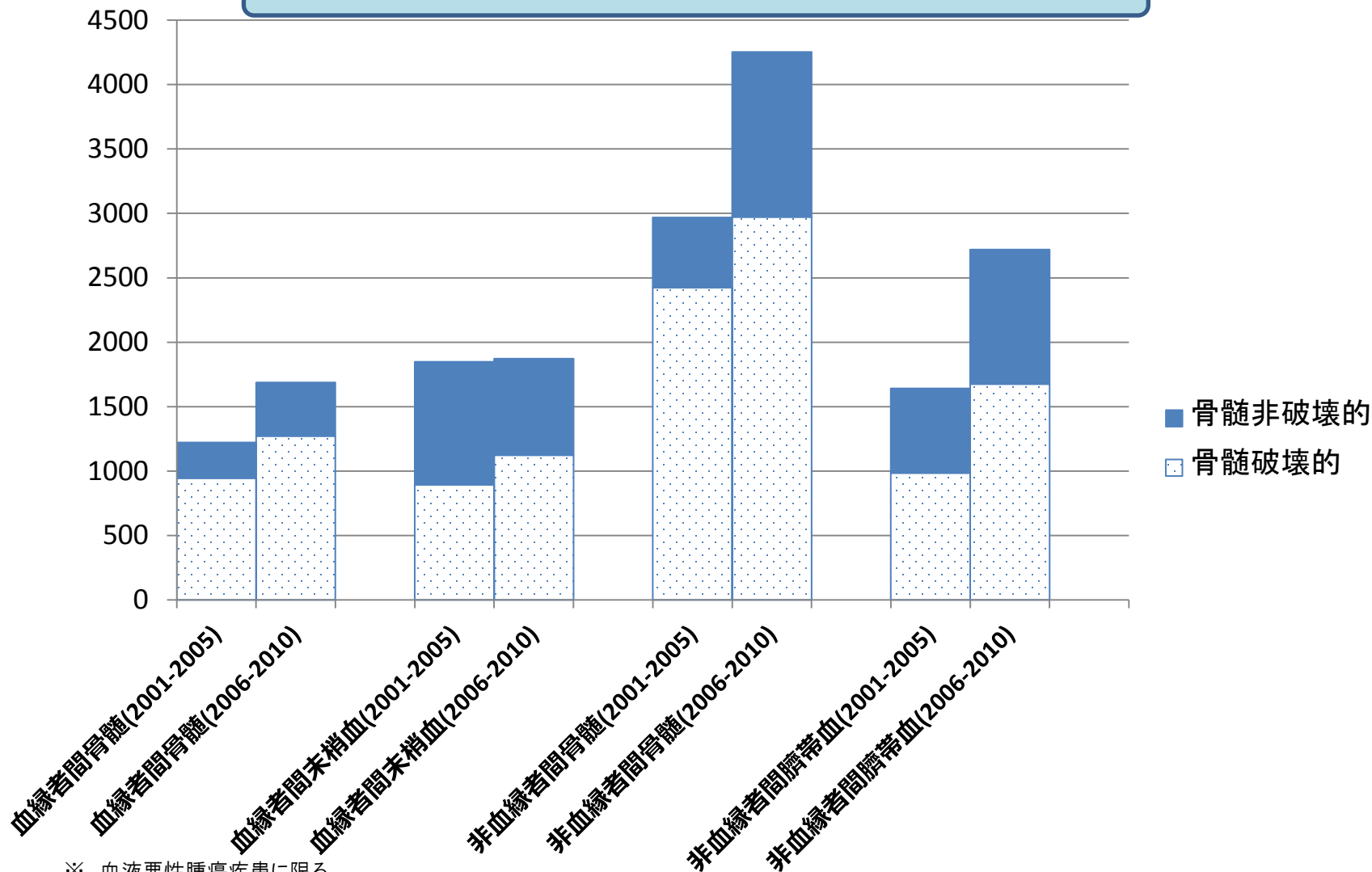
移植時年齢別患者数

とくに非血縁者間骨髄・臍帯血移植で高齢者の割合が増えている。



移植前処置強度別患者数

移植の増加には非破壊的前処置普及が寄与している。



※ 血液悪性腫瘍疾患に限る。

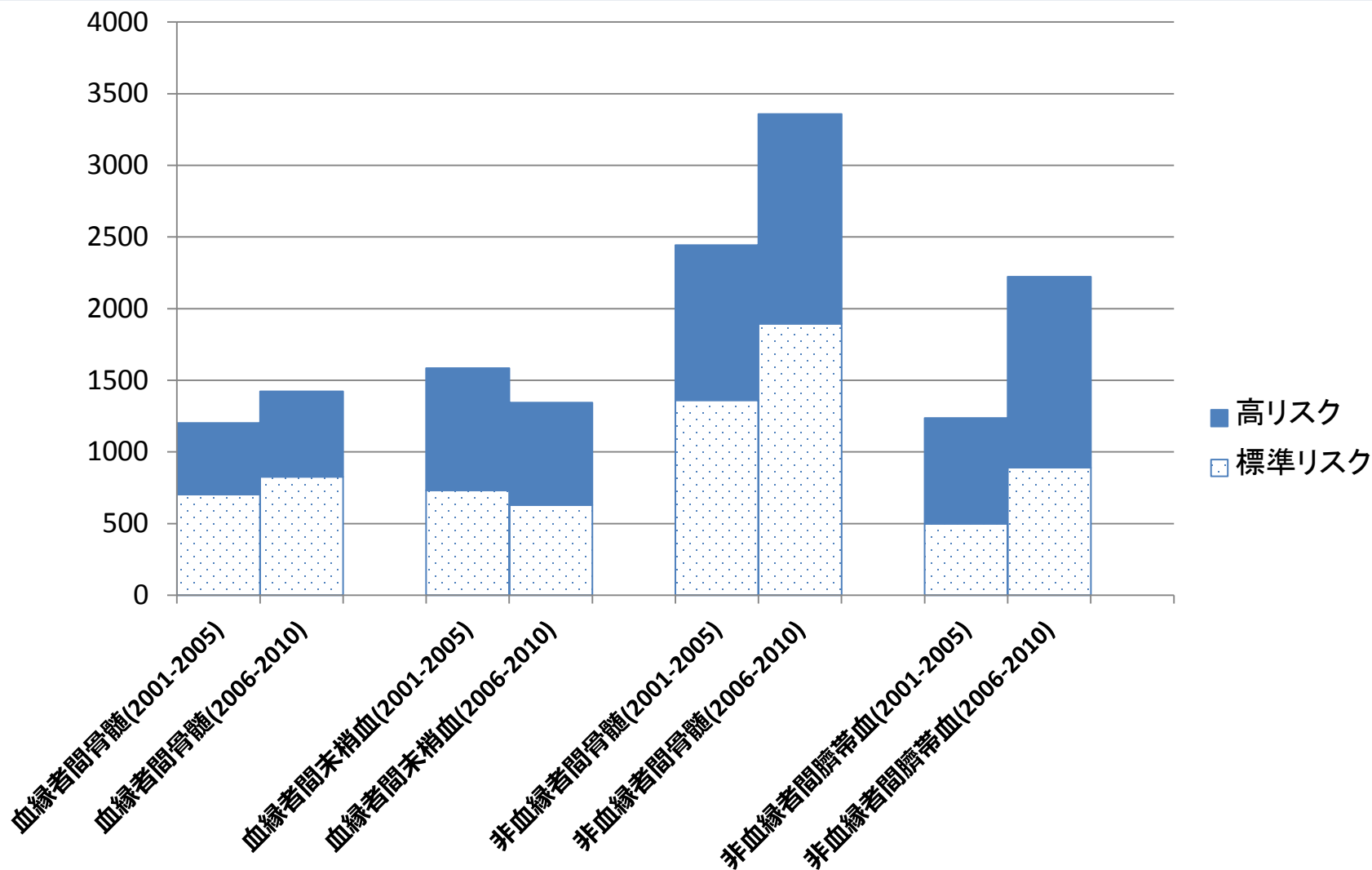
※ 前処置強度は、米国のワークショップレポート(Biol Blood Marrow Transplant 2009;15:367-9)に基づく分類。全身放射線放射 $\geq 8\text{Gy}$ 、メルファラン $\geq 140\text{mg/m}^2$ 、ブスルファン $\geq 9\text{mg/kg}$ のいずれか一つに該当する場合は骨髄破壊的と判定。

ただし、薬剤・放射線投与量の情報が得られなかった症例においては、主治医判断を採用。

※ 日本造血細胞移植学会のデータより臓器移植対策室にて作成

リスク別患者数

とくに非血縁者間骨髄・臍帯血移植で、比較的治療の困難度の高い患者にも移植が行われるようになった。



※ 急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群に限る

※ リスク分類は同種移植治療成績にもとづく移植時の状態による米国のリスク分類(Blood 2005;106:2912-2919)などを参考に日本造血細胞移植学会にて定義。移植時病期が急性骨髄性白血病第一寛解期・第二寛解期、急性リンパ性白血病第一寛解期、慢性骨髄性白血病第一慢性期、骨髄異形成症候群 不応性貧血・鉄芽球形貧血であったものを標準リスク、他は高リスクとした

※ 日本造血細胞移植学会のデータより臓器移植対策室にて作成

移植時年齢別移植成績

いずれの年代でも治療成績は向上してきている。

	非血縁者間骨髄				非血縁者間臍帯血			
	2001-2005		2006-2010		2001-2005		2006-2010	
移植時年齢	1年生存率	5年生存率	1年生存率	5年生存率	1年生存率	5年生存率	1年生存率	5年生存率
0-15	77%	65%	83%	70%	68%	52%	73%	59%
16-30	68%	52%	78%	60%	61%	48%	66%	50%
31-45	64%	48%	69%	55%	49%	35%	57%	42%
46-60	53%	35%	59%	42%	36%	24%	46%	31%
61-	43%	26%	52%	31%	27%	12%	35%	23%

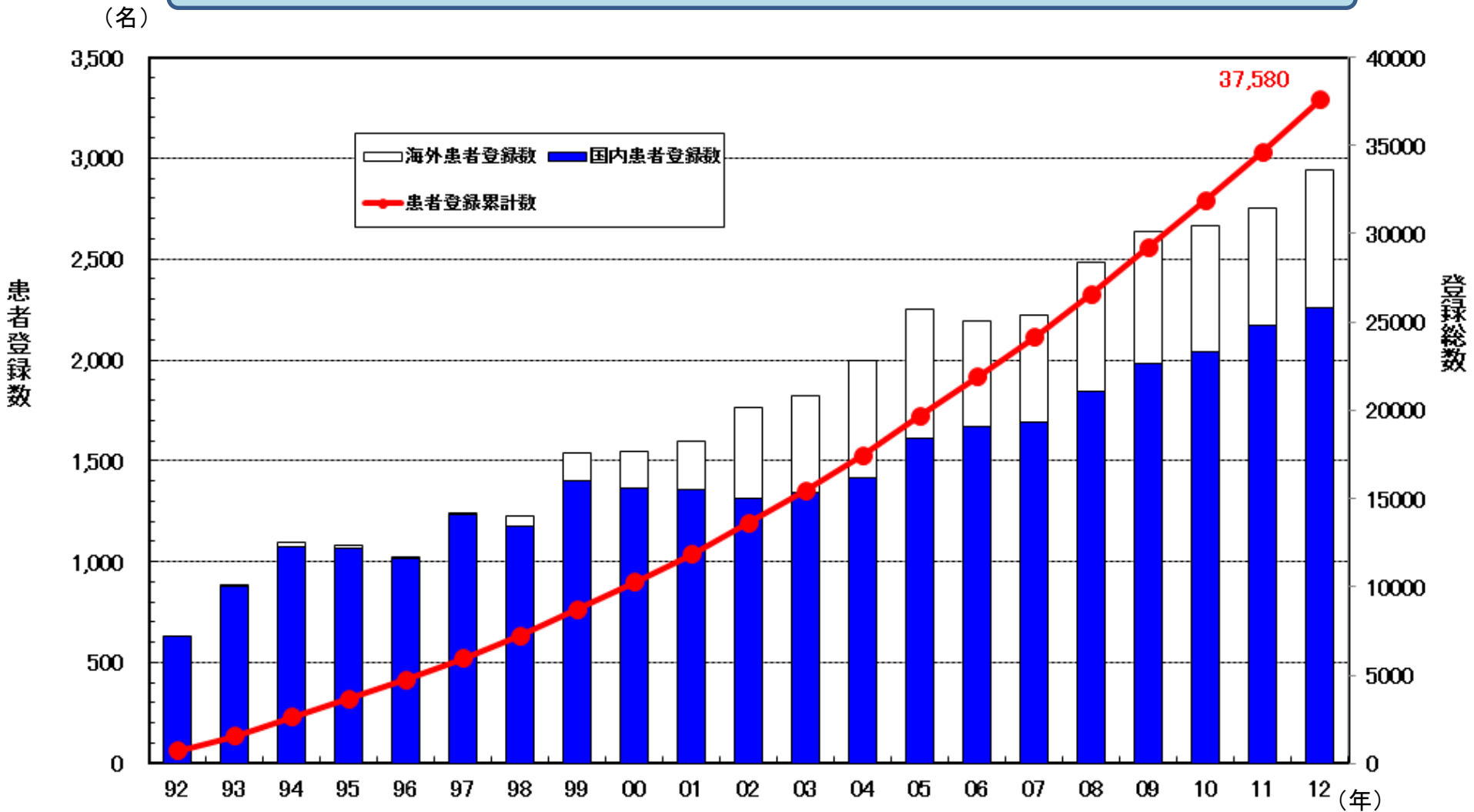
前処置別移植成績

治療成績は向上には骨髄非破壊的前処置の治療成績向上が寄与している。

	非血縁者間骨髄				非血縁者間臍帯血			
	2001-2005		2006-2010		2001-2005		2006-2010	
前処置	1年生存率	5年生存率	1年生存率	5年生存率	1年生存率	5年生存率	1年生存率	5年生存率
骨髄破壊的	65%	47%	66%	50%	56%	41%	57%	40%
骨髄非破壊的	52%	35%	62%	44%	35%	21%	44%	32%

患者登録者数の推移

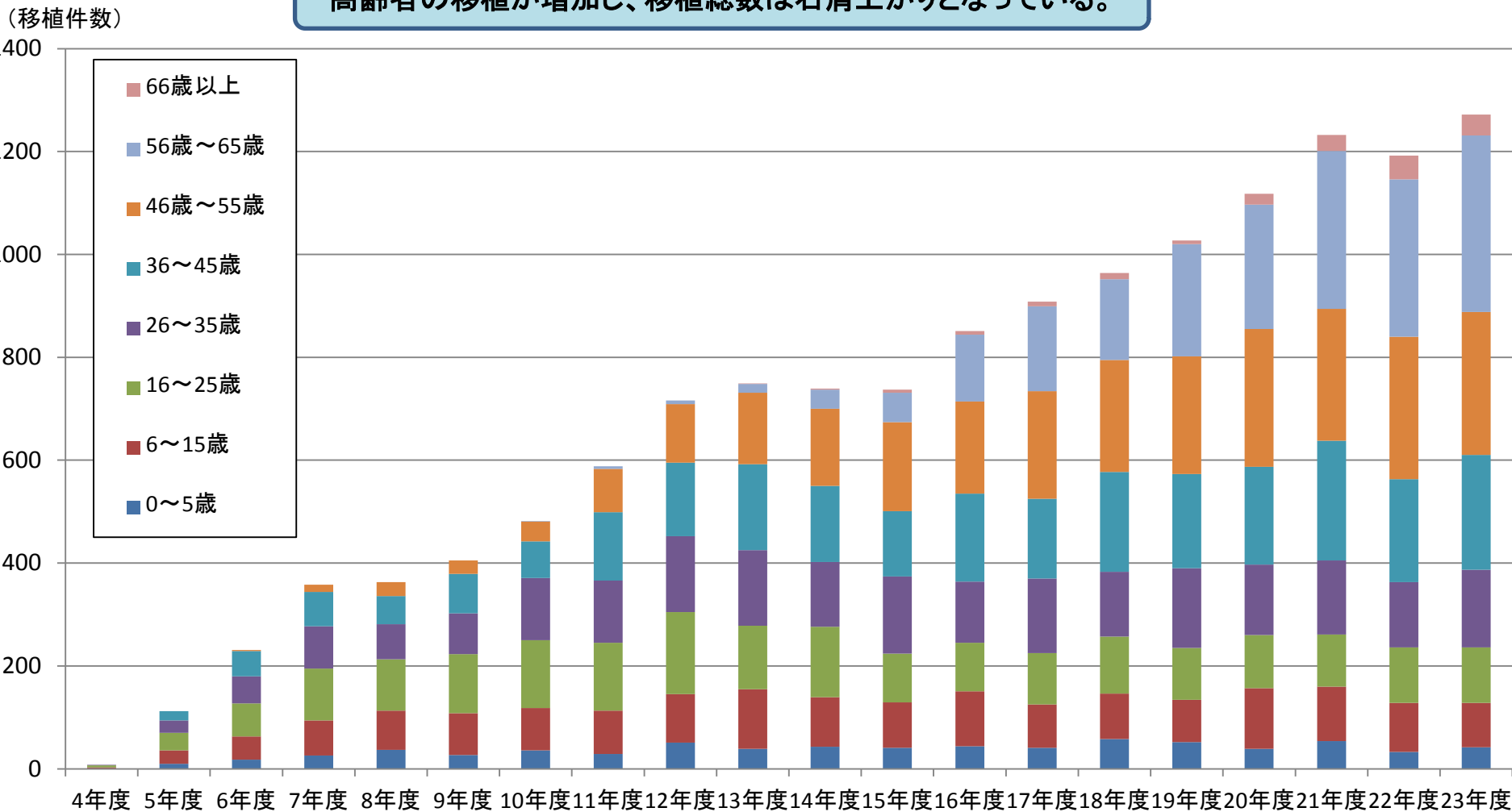
様々な要因があるが、非血縁者間造血幹細胞移植を希望している患者数は年々増加している。



※ 2012年12月末現在
 ※ 出典：中央骨髓データセンター

非血縁者間骨髄移植時年齢階層別移植数

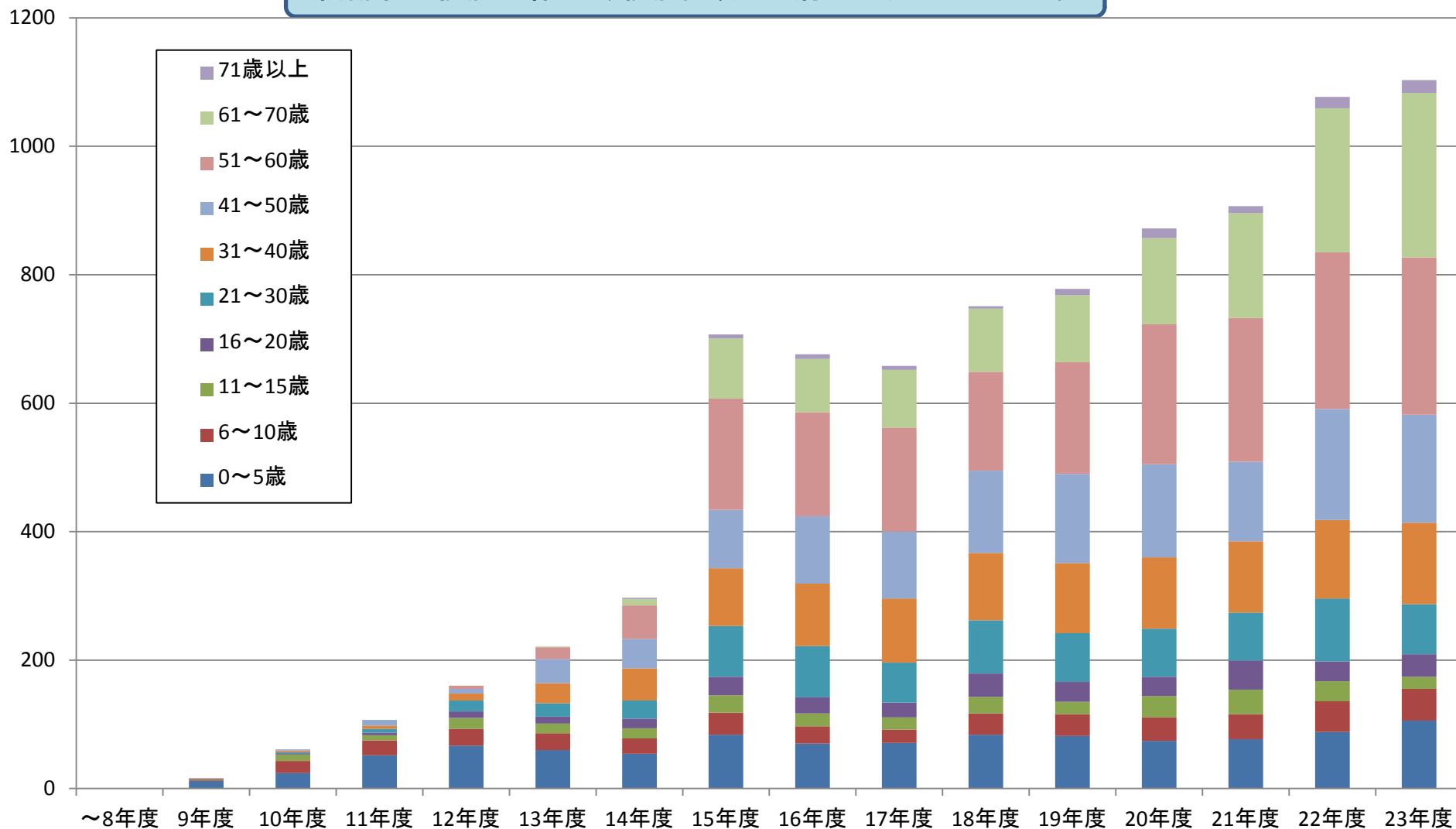
高齢者の移植が増加し、移植総数は右肩上がりとなっている。



非血縁者間臍帯血移植時年齢階層別移植数

(移植件数)

高齢者の移植が増加し、移植総数は右肩上がりとなっている。



※ 平成24年度の移植数については、平成24年6月25日時点の数値
※ さい帯血バンクネットワークのデータより作成